

社会人野球および草野球プレーヤーにおける野球観と野球経験についての検討

前田 陽亮 (競技スポーツ コーチングコース)
指導教員 北村 哲

キーワード：競技志向，ジュニア期，指導者

I. 緒言

社会人野球といわれるスポーツは幅広く存在する。活動者は小学校時からプロ野球や高校野球の甲子園を見据えた過熟化した競技志向に偏重した環境で活動してきた。浅見ほか

(1984)は、「学校・スポーツ」は、運動部活動が過熟化し競技志向に偏り過ぎることを問題視している。そのため、野球が競技志向に偏り、野球のスポーツとしての幅を狭めているのではないかと考える。そこで本研究は、レクリエーション志向で活動している草野球チームの選手と競技志向で活動している社会人野球選手を対象に、ジュニア期の活動から現在までの野球観と現在の野球経験について調査し、シニアの野球活動についての知見を蓄えることを目的とした。

II. 研究方法

1) アンケート用紙

(1)現在の野球観：15項目

(2)スポーツ活動の志向意識：9項目

(3)小・中・高の活動への希望：12項目

上記について、5件法による36の質問項目と、自由記述による19の質問項目(計55項目)。

2) アンケート調査対象

社会人野球(野球連盟加盟企業チームおよび地域密着型クラブチーム)8名、草野球チーム(連盟無所属)9名の計17名。

III. 結果

1. アンケート5件法項目の結果の比較

①「勝つことが目的」に関わる2つの項目について、社会人野球選手の方が有意に高かった($p < 0.05$)。また、「余暇の楽しみ」に関する3つの項目について草野球チームの方が有意に高かった($p < 0.05$)。このことから、両グループとも活動選択の際、何を志向しているのかが重視されていることが示唆された。

2. KJ法を用いて社会人野球チームと草野球チームの整理比較

①野球観については両グループで楽しいものであるといった「野球の魅力」についての表記

が多く見られた。草野球ではチームで協力することが魅力であるといった「人間関係」についての表記が多く見られた。社会人では技術が向上できるといった「活動利点」についての表記が多く見られた。現在の野球の目的に影響している内容が多く見られた。

②両グループの親、指導者の競技志向の強さによる影響には違いが見られず、影響は見られなかった。競技志向の偏りが活動者自身の活動経験によるものが原因であるかは本研究では明らかにできなかった。

③活動者が小学校・中学校・高校期の活動で希望することについては両グループともに小学校期には楽しむべきであるなどの表記が多く見られた。中学、高校では勝つことが重要であるといった「強い競技志向」についての表記が多く見られた。

IV. 考察

活動の目的の違いは人と集まることなどを求めて活動している草野球と技術向上を求めて活動している社会人野球とで違いがあった。このことから野球観は現在の活動目的に影響があると考えられる。両グループで親、指導者の競技意識の強さの影響は見られなかった。活動者が各時期に活動に望むことについて両グループともに小学校で楽しむことが良いと考える表記が多いことから小学校期にはレクリエーション性を望んでいると考える。両グループ中学、高校で競技志向の偏りが見られることから小学校期にレクリエーションスポーツの選択肢があれば野球の幅が広がり楽しく野球に関わることのできる環境になるのではないかと考える。

主な文献

浅見俊雄ほか編(1984)『現代体育・スポーツ体系』講談社：東京：p.59.

中澤篤史(2014)運動部活動の戦後と現在なぜスポーツは学校教育に結び付けられるのか。青弓社：東京、p.51.